

# 医師確保を確実に

## 千葉大学と 臨床教育センター設置の 協定書締結

医師確保の柱となる「千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター」の設置について千葉大学とともに検討してきましたが、このたび地方独立行政法人東金九十九里地域医療センターと千葉大学との間で協定書を締結しました。

この臨床教育センターは東金九十九里地域医療センターに「千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター」を併設して、臨床教育センター内の医師（教授、准教授など）が医療センター内で診療と臨床教育にあたるというもので、病院全体でこのようなシステムを取り入れるのは全国で初めての取り組みです。

この取り組みにより医療センターの医師確保を確実にするとともに、地域における診療活動を通じた教育・研修により医師の育成を図り、地域医療の充実に寄与しようとするものです。

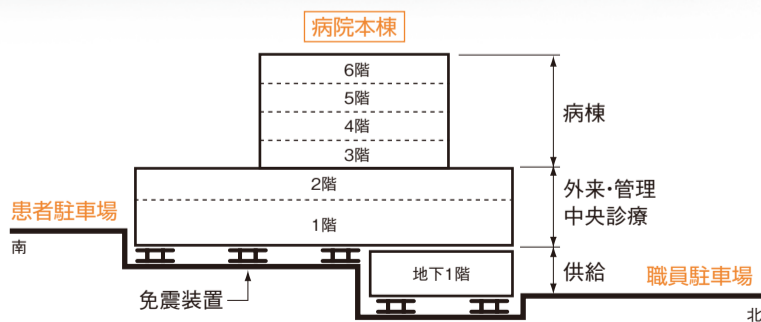
# 基本設計まとまる

## ～救急医療・急性期医療を核とした地域中核病院として～

### 〈施設設備のあらまし〉

- 建設用地：東金市丘山台  
三丁目6番2ほか
- 敷地面積：80,059㎡
- 病院本棟：免震構造  
地上6階地下1階  
鉄骨造  
約26,000㎡  
314床  
(一般病床294床・ICU10床・HCU10床)
- 医師看護師宿舎(45戸)
- 保育所(定員20人)
- 駐車場：740台分
- ドクターヘリ・ヘリポート(地上型)

### 〈病院本棟の断面計画〉



今後、この基本設計を基に、詳細な実施設計を行ったうえで、建設工事に着手し、平成26年4月のオープンをめざします。

また、部門間の連携が円滑にできるように配置することで来院者にとってわかりやすく、また、使いやすくするとともに、医療機能を効率的に発揮できるように配置します。

救急医療・急性期医療を核とした地域中核病院は、地下1階地上6階建てで、地震に強い免震構造を採用します。

東金九十九里地域医療センターの基本設計(建物の形や部屋の配置など建物の基本的な建築方針を定めたもの)がまとまりました。

—外観イメージ図—

## 配置計画

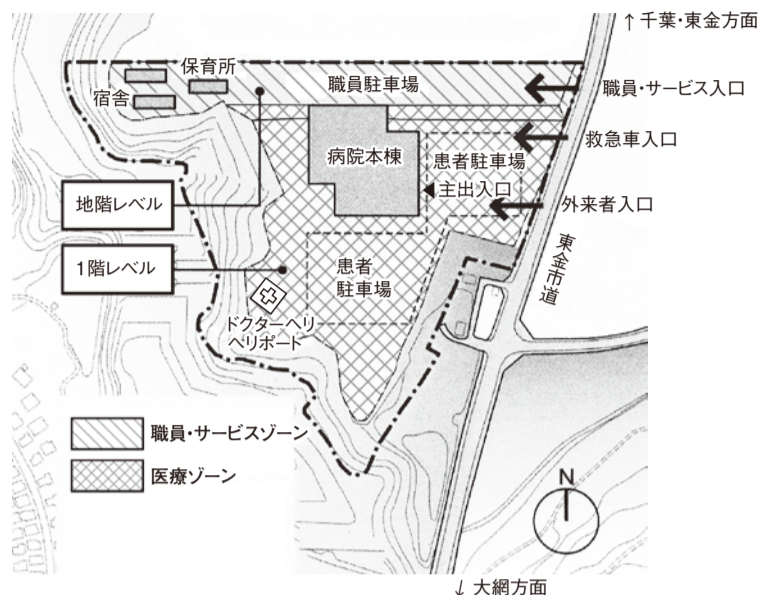
### 《医療ゾーンと、職員・サービスゾーンを分離》

敷地の2段構成を立体的に活用し、病院本棟を地盤の良い段差部分に配置し、地階レベルを職員・サービスゾーン、1階レベルを医療ゾーンとして機能的に分離します。

また、地震の揺れを直接建物に伝えない免震構造を採用することにより、建物の安全性を確保して災害時の医療を継続して提供できるように配慮しています。

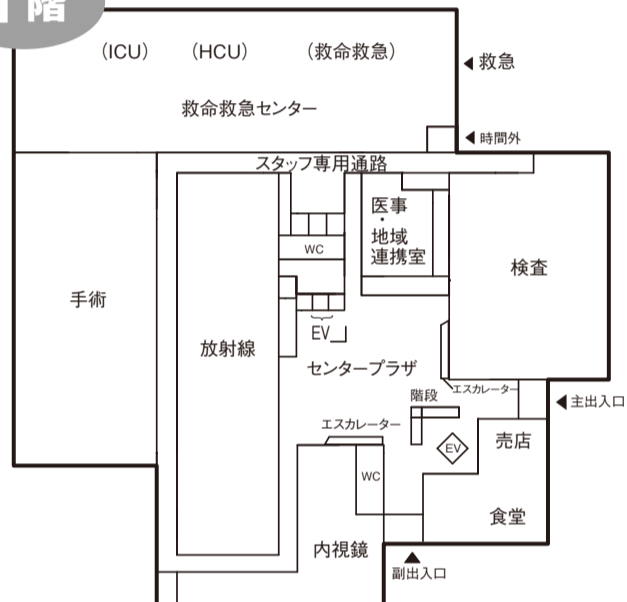
道路側からの進入については、「職員・サービススタッフの入口」、「救急車の入口」、「外来者の入口」を明確に分離し、来院者の安全性と救急医療の迅速性を確保します。

病院周辺の緑と調和しつつ病院内からの眺望などに配慮した配置とし、救急医療・急性期医療を核とした地域の中核病院として新たな医療の場を創り出します。



## 各階の平面図

### 1階



救命救急センターと中央診療部門(手術、放射線、内視鏡、検査)を1階に集約して配置し、万全の医療提供体制を確保します。

※ICU:集中治療室

※HCU:集中治療室から一般病棟に移行するまでの間の病床

※EV:エレベーター

### 2階

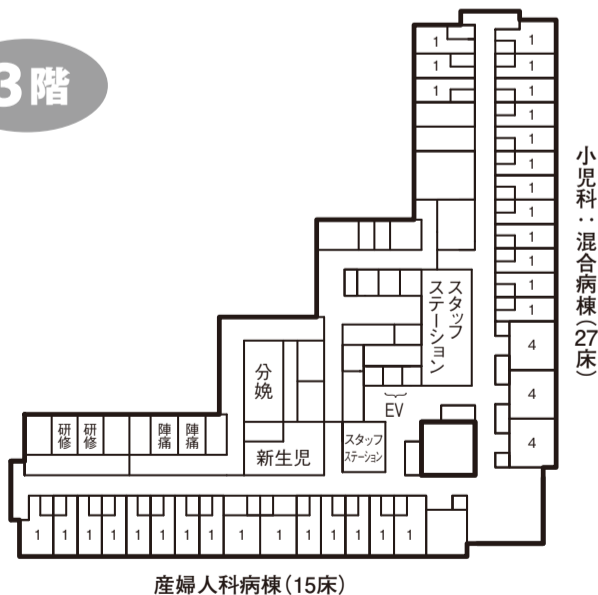


センタープラザを囲むように外来診療室等を配置することにより、来院者にとってわかりやすく、また、明るく環境の良い待合スペースとします。

1・2階専用のエレベーター・エスカレーターを設置し、高齢者の方や体の不自由な方も安心して来院していただけます。

また、地域住民の健康講座等にも利用できる講堂を配置します。

### 3階



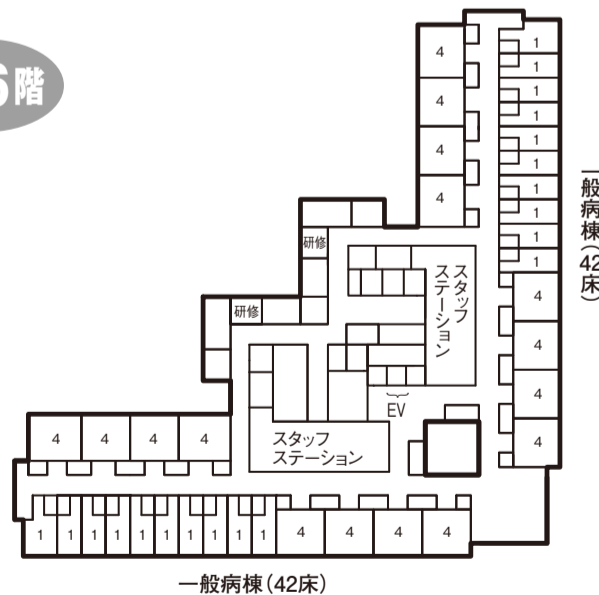
産婦人科病棟(15床)

※数字はベッド数を示しています。

南側の産婦人科病棟は15床、東側の小児科を中心とした混合病棟は27床とし、産婦人科病棟の病室は母子を同室とするため、すべてトイレ、洗面所を完備した個室とします。

小児科を中心とする混合病棟の病室は、入院時に付き添う家族に配慮して15室を個室とします。

### 4~6階



一般病棟(42床)

※数字はベッド数を示しています。

各階ごとに、眺望の良い南側と東側に2病棟を配置します。1病棟は看護チームが患者を把握しやすい42床とします。

病棟の中心部にスタッフステーションを設けて、2つのスタッフステーションは相互に連携できるものとし、看護動線を短縮して患者が安心できる配置とします。